

登録コード	HM122200	開講年度	2026			
授業題目	精神医学診断学特論				担当教員	鷲塚 伸介 他
英文授業名	Psychiatric Diagnostics				副担当	本田 秀夫
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				精神科の診断について概括して説明できるようになる。	
(2)詳細/Detailed information	精神疾患がどのように診断されているかを学ぶことが精神医学研究には欠かせない。この素養がないと適切な疾患動物モデルの作成やその適格性の判断すらできないことになる。精神科診断の実際を講義し理解を深めることを目的とする。					
(3)授業の概要/Overview of course	症候・経過・転帰を基に行われる精神科特異的な診断学について講義する。あわせて生物学的指標となる臨床検査や心理検査を説明し、その有効性と限界について理解を深める。					
(4)授業計画/Course plan	オムニバス方式 １．精神科医療面接における状態像の評価→暫定診断→治療反応性評価→確定診断→的確な治療導入といった精神科診断学の基本的展開について講義する。【鷲塚伸介/第1回～第8回】 ２．国際的診断基準であるDSM-5-TRとICD-11について講義を行うとともに、先端的な検査方法の紹介を行う。【本田秀夫/第9回～第15回】					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	全ての授業終了後に、授業の内容に関連したレポートの課題を与える。 精神科診断学の基本的展開について理解しており、臨床応用もしくは研究応用できる水準にあるか、国際標準となっている操作的診断基準について理解しているかをレポートで検証する。レポートの採点基準は以下のとおり、 精神医学的状態像が正しく評価でき少なくとも状態像診断ができれば可、さらに確定診断のために何が必要かを考察できれば良、加えて鑑別診断が根拠をあげて複数提示できれば優、これら全てが教員を感心させるレベルにあれば秀を与える。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	パソコンを用いてレポートを作り、メールを用いて提出することが可能な環境を準備すること。 参考書は講義の際に随時指示する。診断統計マニュアルであるDSM5は用意してほしいが、それが困難な場合は教室備品のものを貸し出す。 精神科臨床の経験がない場合、予習は困難と思われるので、そのような受講生は復習を十分に行うこと。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	オフィスアワー 毎週火曜日 12：15～13：00					
(8)授業の形式/Course format	講義形式。講義では臨床課題も提示し受講生に考えさせる時間を設ける。					